



海
峽
類
歌
存
玉
集

秋



紀傳古今類聚卷之五集

秋之部

七月一	秋初涼三	砂焉四	星出六	星上宵七	星別八	債小袖八	銀何九	泥柳十二	切露十三
文月一	未秋三	初嵐四	七夕六	星忘八	羞星八	鶉袴九	盆の月十	墓語十二	宮傳露十三
立秋一	今日秋三	稻妻五	星集七	星迎八	新象八	硯洗九	魂匣十一	迎鐘十二	迎中十三
今秋二	初秋四	初月六	星合七	逢星八	立身八	握葉九	魂系十一	於露十三	送火十四



秋	廿二	蓮宮飛	廿二	冬芒	廿二	秋州	廿二
秋	廿一	德輝	廿三	窠馬	廿四	瑞卿	廿四
秋	三十	藤虫	廿四	蛭明	廿四	秋虫	廿五
秋	廿九	魯虫	廿五	蟬	廿五	秋管	廿五
秋	廿八	秋收	廿五	秋蟬	廿六	秋蟬	廿六
秋	廿七	二百十日	廿六	蟬吟	廿七	秋蟬	廿七
秋	廿六	信名	廿八	鳴蟬	廿八	鳴子	廿七
秋	廿五	通射山	四十	田面日	四十一	葉山子	廿九
秋	廿四	小節	四十	月入	四十一	八月	四十
秋	廿三	秋宮	四十二	夜寒	四十二	八月	四十一
秋	廿二	西瓜	廿二	冬芒	廿二	夜寒	四十二
秋	廿一	葡萄	廿一	葵	廿一	夜寒	四十二
秋	三十	冰引子	三十	葵	三十	夜寒	四十二
秋	廿九	葵	廿九	葵	廿九	夜寒	四十二
秋	廿八	紫苑	廿九	葵	廿九	夜寒	四十二
秋	廿七	葵	廿八	葵	廿八	夜寒	四十二
秋	廿六	木槿	廿二	葵	廿六	夜寒	四十二
秋	廿五	柳	十八	葵	廿三	夜寒	四十二
秋	廿四	盆	十五	葵	十九	夜寒	四十二
秋	廿三	施錄鬼	十四	葵	十五	夜寒	四十二
秋	廿二	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	廿一	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	二十	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	十九	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二
秋	十八	盆	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	十七	施錄鬼	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	十六	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	十五	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	十四	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	十三	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二
秋	十二	盆	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	十一	施錄鬼	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	十	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	九	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	八	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	七	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二
秋	六	盆	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	五	施錄鬼	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	四	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	三	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	二	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	一	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二

秋	廿二	蓮宮飛	廿二	冬芒	廿二	秋州	廿二
秋	廿一	德輝	廿三	窠馬	廿四	瑞卿	廿四
秋	三十	藤虫	廿四	蛭明	廿四	秋虫	廿五
秋	廿九	魯虫	廿五	蟬	廿五	秋管	廿五
秋	廿八	秋收	廿五	秋蟬	廿六	秋蟬	廿六
秋	廿七	二百十日	廿六	蟬吟	廿七	秋蟬	廿七
秋	廿六	信名	廿八	鳴蟬	廿八	鳴子	廿七
秋	廿五	通射山	四十	田面日	四十一	葉山子	廿九
秋	廿四	小節	四十	月入	四十一	八月	四十
秋	廿三	秋宮	四十二	夜寒	四十二	八月	四十一
秋	廿二	西瓜	廿二	冬芒	廿二	夜寒	四十二
秋	廿一	葡萄	廿一	葵	廿一	夜寒	四十二
秋	三十	冰引子	三十	葵	三十	夜寒	四十二
秋	廿九	葵	廿九	葵	廿九	夜寒	四十二
秋	廿八	紫苑	廿九	葵	廿九	夜寒	四十二
秋	廿七	葵	廿八	葵	廿八	夜寒	四十二
秋	廿六	木槿	廿二	葵	廿六	夜寒	四十二
秋	廿五	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	廿四	盆	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	廿三	施錄鬼	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	廿二	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	廿一	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	二十	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	十九	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二
秋	十八	盆	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	十七	施錄鬼	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	十六	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	十五	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	十四	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	十三	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二
秋	十二	盆	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	十一	施錄鬼	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	十	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	九	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	八	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	七	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二
秋	六	盆	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	五	施錄鬼	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	四	蓮	十四	葵	十四	夜寒	四十二
秋	三	花尾	十五	葵	十五	夜寒	四十二
秋	二	柳	十八	葵	十九	夜寒	四十二
秋	一	木槿	廿二	葵	廿三	夜寒	四十二

秋夜	四十三	長夜	四十三	二月月	四十四	二月月	四十四
夕月	四十四	宵月	四十四	待宵	四十四	八重月	四十五
名月	四十六	今月月	四十七	月々宵	四十八	月見	四十八
草名月	四十九	月	五十七	十六夜	五十一	立結月	五十一
尾結月	五十二	秋結月	五十二	寤結月	五十二	夜中月	五十二
秋月	五十二	雨月	五十三	星月夜	五十三	初夕	五十三
芒	五十四	尾芒	五十五	尾芒	五十六	芦芒	五十七
芦種	五十七	小蒜芒	五十七	初卯柴	五十八	鳥所	五十九
唐辛子	五十九	葛葛	五十九	葉生葛	五十九	芥子所	五十九
間引菱	五十九	穉州	五十九	粟州	六十	胡麻州	六十
稻	六十	早稻	六十	晚稻	六十	田守	六十
毛見	六十	田刈	六十	稻刈	六十一	御稻	六十一

尾種	六十一	新米	六十一	七重米	六十一	燒米	六十一
稻雀	六十一	初尾	六十二	鷹	六十二	釜掃	六十三
鴨	六十三	鶉	六十三	阿比小	六十三	割	六十三
鵲	六十四	山雀	六十五	鶉	六十五	鶉鶉	六十五
茶の葉	六十五	秋味	六十五	秋風	六十六	暴風	六十七
秋日	六十八	秋空	六十八	秋山	六十八	秋海	六十九
秋川	六十九	秋水	六十九	秋雨	六十九	秋霧	七十
露霜	七十	水霜	七十	霜	七十一	霜官	七十一
古鏡條	七十一	後鏡岸	七十二	九月	七十二	長月	七十二
十三夜	七十二	皇名月	七十二	后の月	七十三	早稻酒	七十四
新酒	七十四	今新酒	七十四	醜醜酒	七十四	後鏡	七十五
九日葉	七十五	葉	七十六	望葉	七十七	葛葉	七十八

立秋

松生丹萩中より秋多林ありを
林よりや相し色ふりし戸廻橋
林よりや枝を落しるころつり
石より落しや松もくもく峰の重
を林よりけしけと伸し花のつ
林よりや葉ありまけぬ一葉内
あまのや葉小弓かいと流り
秋よりや萩の葉もちりたの川
よふよふのこもるて林をくく
遠より萩の葉もくふく萩の林のま
あまのころと人のいよし山の河
木槿よりや我せれはふ林のま

白雄
長翠
全
全
三彦
篤老
梅室
大梅
茶静
全
斗超
全

林よりや月夜まよる人よ
江戸も旅ゆつとまきりま林のま
舟の舟のまよるて林を二階うね
林よりや一よあふりる古よま
あねまや小まきりあ峰の松
たはる松のまよる江戸もく萩のま
はるまよるまよる二の萩のま林のま
松葉まよるまよる林を月ねれ
あまのまよるまよるまよるまよる
林よりやまよるて火を焚山家
まよるのまよるまよる林のまよる
と下のか茂の林ありあまのま

若人
蕨水
啄秋
碓月女
二三
ちう丸
縣山
苞竹
乙良
抱琴
英文
如洋

陸奥の流とに林のまじりぬ
 と林をよららの風もさそくを
 おきよき風を待てるはやうれ
 魚の眼も林とらたまあり市の中
 林も川とらみやましく井の源色
 まれ戸うら月さそくし林のま
 いろみもの流葉はこれやうき
 是洲とよま洲も留りうらわの林
 叔亮の鶴甲より本奈けあう林
 常志あやむのまみりうきさのほき
 とれつ林風うらも先あふちる
 庭く起ても揺らまうやけさの林

如洋 雪哉 文雪 南楚 麥秋 蓼歌 曉臺 長翠 全 三千彦 全 素榮

今朝の秋

舟をい思ひもさるやと船の味
 くらに林もつらうらうらと若うら
 杓杞垣のまや荒らめくけさの林
 林かくくまさくせくえうらわの林
 才てらうらアそりしまひやと船の秋
 舟さそりうら信も信くくしとさの秋
 芒うらうらまみまらまきあきの秋
 野池のまもらうらとと船の秋
 うらうらのまも冷くうらわの林
 かみ川を越えくまもれけさの林
 志うらうらの居あしうらうらさの林
 名もまらぬまらうらうらうらわの林

篤老 鳳朗 翠蓋 長莊 丁知 石坡 祖郷 一朗 系友 一阜 志丈

秋初涼

來秋

秋もあけきりてふれぬハ重葎
煉きしはまらぬ舟乃こちし
林もくも吹や世谷の果古
そやけりや霞まらりそ輝のを
眼もくもて林のまらこしあつこ
阿きのまらこちやしもくもる松か
人の待煉きこもらる松葉のぬ
風もくも吹や一方より松のまら
そこの戸も林のまら居無さう哉
待もくもる座敷もあはれ煉きまらぬ
諸僧も待もくも吹やぬくみの秋
初夕のけりもくも林もまらけり

長翠
三平彦
長翠
涼湖
花江
有本
東臯
一臯
松葉女
志丈
長翠
素霄

今日の秋

初秋

殘暑

星もくもるもくも吹やけり
もくも林やけりまらぬ舟乃こちし
初あきやけりけり入秋の片障子
山もくもるもくも吹や林もまらけり
けり初秋のけりまらぬ舟乃こちし
かろるもくも吹や初秋のけりまらぬ
初秋やまらぬ舟乃こちし
もくも林のたもくも吹や初秋のけり
けり初秋のけりまらぬ舟乃こちし
かろるもくも吹や初秋のけりまらぬ
もくも林のたもくも吹や初秋のけり
かろるもくも吹や初秋のけりまらぬ
もくも林のたもくも吹や初秋のけり

一臯
白雄
三平彦
全
可都里
二三
伯丈
里霄
三平彦
成美
寥松
應々

初嵐

ちやうや法をききしけの襟をかり
ちの田ち二もききむいあき
持ちちを降るも秋あつさう
掃除したるものも秋あき
きりきりあつさう
相の葉の影も秋あき
旅たててあつさう
新法法のきりきりあつさう
まきふ木も秋あき
小系女のまきの法も秋あき
秋あきけりあつさう
古池やぬききりあつさう

茶 静
白 光
葛 古
有 木
如 洋
嘯 月
蘭 中
川 帶
鳥 醉
白 雄
保 吉

稲妻

いささか東をききしけの襟をかり
いささか木葉もききしけの襟をかり
稲妻乃稲妻もききしけの襟をかり
山風の法もききしけの襟をかり
夜明もききしけの襟をかり
初嵐もききしけの襟をかり
夕もききしけの襟をかり
稲妻もききしけの襟をかり
長翠もききしけの襟をかり
三年彦もききしけの襟をかり
全

荷 乙
谷 雀
有 木
菅 丸
涼 湖
碓 嶺
文 樵
白 雄
全
長 翠
三 年 彦
全

以れつやとり人合もさき不破の弁
 稀まありあまのけの宮や 葉の汁
 いまはよや園の音乃 神のい入
 稀まあれ思ひ人死さかたれ
 以まはるのこれまはけや 葉の汁
 稀まや待物末の人まはれ
 いまはよや 葉の汁又まは馬の上
 稀まや 葉の汁まは 向人乃家
 稀まよの流まはまはまはまは
 以れまはまはまはまはまはまは
 稀ままはまはまはまはまはまは

三千彦
 全
 可都里
 全
 葛三
 全
 成美
 申齊
 けを
 斗筵
 茶静

初月

いまはまはまはまはまはまはまは
 稀ままはまはまはまはまはまは
 稀ままはまはまはまはまはまは
 いまはまはまはまはまはまはまは
 稀ままはまはまはまはまはまは
 いまはまはまはまはまはまはまは
 稀ままはまはまはまはまはまは
 いまはまはまはまはまはまはまは
 稀ままはまはまはまはまはまは

五十二
 雨紅女
 江戸
 卜蛙
 三千彦
 全
 全
 斗入
 壺半
 伯支
 白雄
 保吉
 三千彦

花火

七夕

木下とてのさうり 静かに花やふか
さぬくみさうらとく 鈴とぬち火之れ
ききしふ人の 蘇見る 蘇せう子
ふる人あきあけの ちの記も大哉
七夕や びり 貝有るの 箱しこら
たきこもいさや けさなや 蓮のむ
桐揚やまじいれさく へん へん
七夕 志忠 木下 木下 何々
たれとあや 秋の ちの記は 氣色
ふるさうらとく ちの記は 門の 戸廻り
七夕や 儀もさく 子の 庚子

荳村 花江 蓼歌 涼湖 葛三
全 成美 且々 蒼乳 史千 東皇

星祭

さかきとてのさうり 静かに花やふか
さぬくみさうらとく 鈴とぬち火之れ
ききしふ人の 蘇見る 蘇せう子
ふる人あきあけの ちの記も大哉
七夕や びり 貝有るの 箱しこら
たきこもいさや けさなや 蓮のむ
桐揚やまじいれさく へん へん
七夕 志忠 木下 木下 何々
たれとあや 秋の ちの記は 氣色
ふるさうらとく ちの記は 門の 戸廻り
七夕や 儀もさく 子の 庚子

有木 左々 三彦 全 全 全 全 全
即鵬 宇南 桃吏 静兩 春鴻 長翠

星合

星今宵

星をみれば影もさびしき人の光
海に今やあはれも向ひぬ合せ
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光

可都星
伯主
暁臺
長翠
全
全
全
三彦
全
梅令
阿兮

星の戀

星迎

逢星

星をみれば影もさびしき人の光
海に今やあはれも向ひぬ合せ
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光
星をみれば影もさびしき人の光

静雨
素霍
花江
乙二
茶静
長翠
旬光
樗良
樗堂
角杖
青川
静雨

星の別

さる松を思ハハ星のわくれぬ
松杉もなごころのまのま

保吉
如毛

彦星

彦星のおもむねをふかされり
おもむねの伝へるるその中

宜頂
系友

願系

さしよやねの糸の吹るる
五糸の介りあつた糸の
と糸をさす糸ひや糸のつた
人の糸ひ糸よりあつた糸

乙二
荷乙
伯丈
左

立琴

茶静しそ琴も琴居る所
さるや浪士の松風返り

茶静
左

貸小袖

小木の白玉の貸しつた
つたこれハ星の老るやか小袖

乙二
茶静

鶴橋

鶴橋の神の白ひのつた
つたつたや羽衣をてつた
つたつたつたつたつた

女玉
両紅女
三千彦
千影

硯洗

硯洗の硯も硯のつた
硯洗の硯も硯のつた
硯洗の硯も硯のつた

三千彦
碓嶺
良梁

梶の葉

梶の葉も梶の葉のつた
梶の葉も梶の葉のつた
梶の葉も梶の葉のつた

長翠
三千彦
月居
寥松
一具

銀河

新よみくくぬ林も橋の長由
鏡鏡くく海をくくやまの川
あまの川もくくくくくくくく
てくく海も鏡やま見むくく
流きくく物のかくくくくく
きりみや鏡くくくくくくく
もくくくくくくくくくくく
木も山もくくくくくくくく
古くくくくくくくくくく
銀河もくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
あまの川のくくくくくく

長 莊
鳥 醉
白 雄
士 閑
可 都 里
博 堂
蕉 兩
一 茶
大 梅
應 々
鹿 太
荷 し

あまの川のくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
地もくくくくくくくくく
あまの川もくくくくくく
夜もくくくくくくくく
天の川もくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

三 馬
負 雄
一 耕
菅 丸
其 氷
梅 温 尼
露 園
批 仙
静 雨
志 丈
孚 石
涼 湖

施餓鬼

七夕のよきつをきくも施餓鬼舟
舟の施餓鬼もあはれはれぬ物もあはれ

三平彦

生身魂

あはれもあはれも詞もつくとくし生身魂
さしおかしき川にけあきさ契りか

梅野

刺籍

刺籍や穂あけおろをさう存書
ほし穂や穂あけあふみの後あつく

以吉

蓮の飯

蓮の飯の治るあはれもあはれ蓮の飯
舟も治る後あはれもあはれ蓮の飯

白雄

摂待

蓮の飯の治るあはれもあはれ蓮の飯
舟も治る後あはれもあはれ蓮の飯

蕪村

草市

接符やあま舟よりあま
草の祭もあま舟よりあま

南江

麻売

麻売やあま舟よりあま
麻売やあま舟よりあま

葛三

鼠尾草

鼠尾草やあま舟よりあま
鼠尾草やあま舟よりあま

批仙

露

露のつらさのあまのりたりにきりなり
竹葉の涼くひらたもろく丘の露
をまの初をいんていし流波のれ
いれおろけおろくや咲ぬあゆむ
旅まゝいふまゝなる林や松のたゆ
夕露をたつらしてささる休の下
茅葺のまゝなりいづるおまけ
庵や只露のまのま物うらま
舟川のあまをささるるや裾のあ
とくくいのあまらいうまれあなま
あまらやあまらうまらうまら
しつるのまわつれらあまのま

長翠 全
三平 全
全 全
全 全
全 全
全 全
全 全
葛三 全

露のつらさのあまのりたりにきりなり
をまの初をいんていし流波のれ
いれおろけおろくや咲ぬあゆむ
旅まゝいふまゝなる林や松のたゆ
夕露をたつらしてささる休の下
茅葺のまゝなりいづるおまけ
庵や只露のまのま物うらま
舟川のあまをささるるや裾のあ
とくくいのあまらいうまれあなま
あまらやあまらうまらうまら
しつるのまわつれらあまのま

葛三 全
全 全
成美 全
全 全
乙二 全
樗堂 全
素郷 全
木木 全
木葉 全
荷乙 全

月をささぐりて相りけり葉は
思ふにやしと葉は河の字にその
老の眼は去つらんと一葉は
手拵や一葉おとつ風のみ
とや秋とありの葉先を相印とす
是くけの舟の一葉や相とす
海さるは遊しと拵ふしとす
梧のささぐりし中を然るぬ
ぬのの字や思はしと相りて
相一葉はハもよほすを
相苗をささぐりぬの一葉は
知る一葉門の字を

其三
か法良
御風
淡豊
洪山
梅通
祖郷
龜成
藻鏡
巳有
香文
赤甫

松

柳散

葉のささぐりて相りけり葉は
思ふにやしと葉は河の字にその
老の眼は去つらんと一葉は
手拵や一葉おとつ風のみ
とや秋とありの葉先を相印とす
是くけの舟の一葉や相とす
海さるは遊しと拵ふしとす
梧のささぐりし中を然るぬ
ぬのの字や思はしと相りて
相一葉はハもよほすを
相苗をささぐりぬの一葉は
知る一葉門の字を

桃仙
清湖
史弄
菊泉
方舟
全
長翠
尾全
可月
旭山
東臯
李尺

信州

朝こつや涼きさび中あまき
 あさくあさくあさくあさくあさく
 葉や涼香燃る庭ふもあさく
 朝顔やと朝顔の道一筋あさく
 あさくあさくと朝顔の道あさく
 朝顔の道あさくあさくあさく
 あさくあさくの道あさくあさく
 朝顔の道あさくあさくあさく
 葉や涼香燃る庭ふもあさく
 朝顔やと朝顔の道一筋あさく

三千彦
 可都里
 成美
 巢北
 葛三
 升六
 巢居
 五明
 護物
 由誓
 萬籟
 多代女

十ねる朝顔十ねる朝顔十ねる
 十ねる朝顔十ねる朝顔十ねる
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔
 朝顔十ねる朝顔十ねる朝顔

茶静
 全人
 孔正
 北亭
 ちう記
 子世成
 露園
 麥秋
 彌天
 確月女
 祖郷

新形の花みさのふのんえぬ
 あさくらのむしめ風吹垣根あ
 阿きとく乃妻下りの低きこ難
 原とまねれとれも葺の暖り危
 新くやあ夜のめあをそ旅の危
 あん息のたのしくなる浮世あ
 葺ののりぬくぬる若くあ
 おくかまおめああやあのと
 あきし新やあああああああ
 若くやあああああああああ
 新点やあああああああああ
 ああああああああああああ

東阜
 成績
 全
 吉齊
 為泉
 思月
 三平
 文河
 文耕
 文雄
 柳政
 ト畦

木権

新形のねさくくものそまきこれあ
 花木権あああああああああ
 ニと咲木権あああああああ
 身の欲のそあ木権の若くあ
 板の木権ああああああああ
 足の甲木権あああああああ
 新形のあああああああああ
 押ああああああああああ
 柴嚙あああああああああ
 人ああああああああああ
 けああああああああああ
 急ああああああああああ

碓嶺
 白雄
 曉臺
 長翠
 三千彦
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 五明
 鳳朗

白木槿

おのれをいふあそびのさかぬ木槿は
夕照の常をせりしりく木槿は
おのれをいふ木槿の咲く伏屋の
あそびのさかぬ木槿は
あそびのさかぬ木槿は
あそびのさかぬ木槿は
あそびのさかぬ木槿は
あそびのさかぬ木槿は
あそびのさかぬ木槿は
あそびのさかぬ木槿は

梅室
斗筲
易足
兩紅女
有木
梅野
素行
掘芝
舞千
女雪
方舟
三千彦

女郎花

月夜まつ川辺よ志不む木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は
おのれをいふ木槿は

半月
大江丸
長翠
全
三千彦
全
可都里
葛三
全
全
成美

坐石
 至文
 儿明
 其兆
 一鬼
 祖卿
 一阜
 聞鳥
 歸南
 彌天
 百丈
 千秋女
 柴の戸のかやその株や萩乃花

坐石
 至文
 儿明
 其兆
 一鬼
 祖卿
 一阜
 聞鳥
 歸南
 彌天
 百丈
 千秋女

白萩

山萩

川原萩

萩

志の萩や葉あめをまのまをこころ
 月おししをこしはる月萩白
 白萩のこころれ安きみ咲あけを
 山の萩もそれうさうさ萩を
 山とてともいひ咲やうさうさ萩
 山萩や志あきの泊りうさうさ萩
 さうさうさ萩うさうさ萩川原萩
 萩又傳のの尾木あめや川原萩
 萩の心やうさうさ萩うさうさ萩
 萩の心やうさうさ萩うさうさ萩
 萩の心やうさうさ萩うさうさ萩
 萩の心やうさうさ萩うさうさ萩

けを
 嘯月
 涼窓
 葛三
 雨塘
 左くみ
 確嶺
 有木
 儿董
 三千彦
 全
 尾全

栗

葡萄

蕪

黍

蜀黍

栗畑も何を待やら山乃 夢
りも余程せりく其や栗の
栗の穂や夕暮るこぬ利根の波
栗の穂や時ふ力も其ーしき
温泉原より夜をぬきぬとくか
栗ふくくくのまのまのふくく
有くけのぬゆふふり紅あさき
是もこぬ栗のふくく蕪のぬ
ぬくふふゆふあさきをくく
世道ぬくここ黍穂やふ所
黍の穂や夕暮るこぬ風の吹
蜀黍の穂や夕暮るこぬゆふ

三千彦
全
嵐崎
鳳石
九朴
有木
きよめ
夢歌
以吉
三千彦
碓嶺
丈左

鴨頭花

西瓜

冬瓜

糸瓜

瓢

蜀黍を隣より月のまらぬ
竹ゆきや川もくくく
竹影や向くぬく
月もくく 西瓜
糸瓜もくく
冬瓜もくく
糸瓜もくく
瓢もくく
糸瓜もくく
瓢もくく

五十二
静兩
千うせ
二千彦
栗杏
三千彦
涼湖
兩塘
可布
葛三
伯丈
全

葉月

八月や月のるふむ人通す
八月も暮ぬ故の多き伏屋
日ハ西よまゝりて舟は夜を自
あゝ先へ武士の通る路
何となく日暮をいそぐ
西よまゝりて舟は夜を自
八月をそとやけに合ふ
八月や舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自

百穂 斗筵 涼棚 志文 有木 左とみ 長翠 三千彦 全 全 全 全 全 全 全 全

八朔

扇置

八月や月のるふむ人通す
八月も暮ぬ故の多き伏屋
日ハ西よまゝりて舟は夜を自
あゝ先へ武士の通る路
何となく日暮をいそぐ
西よまゝりて舟は夜を自
八月をそとやけに合ふ
八月や舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自

梅令 多代女 茶静 素好 長翠 素好 葛三 白雄 左とみ 方舟 佳風 子と成

竹の春

八月や月のるふむ人通す
八月も暮ぬ故の多き伏屋
日ハ西よまゝりて舟は夜を自
あゝ先へ武士の通る路
何となく日暮をいそぐ
西よまゝりて舟は夜を自
八月をそとやけに合ふ
八月や舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自

梅令 多代女 茶静 素好 長翠 素好 葛三 白雄 左とみ 方舟 佳風 子と成

田面の日

八月や月のるふむ人通す
八月も暮ぬ故の多き伏屋
日ハ西よまゝりて舟は夜を自
あゝ先へ武士の通る路
何となく日暮をいそぐ
西よまゝりて舟は夜を自
八月をそとやけに合ふ
八月や舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自
八月の舟は夜を自

梅令 多代女 茶静 素好 長翠 素好 葛三 白雄 左とみ 方舟 佳風 子と成

持安くまゝしこまゝあまきや
 帯解けハ落さる林乃らにたれれ
 星の光林とちりけを扇おく
 あまきかゝるまの障のゆゑつら
 心好てきむしきむしり於扇扇
 楸乃らもやもゑも一捨ちちえ
 林芽ふく木さく身みむさかひか
 身みゆやよせもくまは乃喜
 やくまゝ一松の苗葉まより入
 えぬ秋のそゞろのそゞろや言さす
 年毎みまやくそそそそそそ
 うそそそそそそそそそそそ
 邪

孚石
 波文
 里川
 素好
 良梁
 左ふ
 外六
 栄李
 保吉
 一志
 儿明
 雨紅女

捨團扇

身み入

漸寒

くそ寒

秋寒
 松さく一葉乃 扇をむらゝか
 花さすのそゞろぬ 林乃さき哉
 小葉生れぬら霜の啼一 邪
 うそそそそそそそそそそそ
 泉さくや夏更腐る ぬる山乃町
 あまきさくや 葉おさめも 露地の舟
 鈴さくや 吐利 扇より扇 ちとそそ
 乃らそそそそ 葉乃ら好 素好
 秋さくや 片まゝそそそそそそ
 塗板より落る 葉さくや乃ら好
 我家のめつ ちとそそそそそそ
 ちとそそそそそそそそそそ

蝶夢
 日人
 三千彦
 大江丸
 卓池
 蟻兄
 葛古
 文玉
 素好
 長翠
 三千彦
 一茶

京

夜寒

朝寒

涼湖のほとり
 月のかげにありあけの空
 小観ふ石橋ありて
 起されし橋より月なる夜空を
 老をうらみ覚悟のかげに
 舟の灯のこぼれかた
 我常あまをよき思ふ
 二の巻にて秋をいふ
 夢をみるはつと
 ゆくは故の空ありて
 年々くは暁癒ふを

涼湖 全 洞天 貞雄 一 佳風 与 蓬国 梅史 有木 田朗 彌天

秋夜

灯の光のほのかに
 江の岸の風の音ありて
 西の空乃消るる
 月影を引つけて
 旅路してあはれ
 玉味増ふ氣乃
 山水の音ありて
 藤ねあはれさ
 秋の夜や床のあはれ
 あまの夜や床のあはれ
 秋の夜や起て
 此の夜や下戸を

林霞 清湖 嘯月 老雀 只石 卜 涼窓 文 白雄 重厚 素郷 全

長き夜

下さの夜乃おもく候き焼くぬ
煤乃夜や信を引るおのう家
林の夜や枕を静かしくし
あさ乃夜の汐を押しさす水
拿す風乃作すしそ夜か
静かしの夜を静かしくし
長き夜や一木をこねてめつら
ちふ夜をちて人乃静かしく
とりとめぬ世も静かしくし
ちかくなると夜を静かしくし
もつ夜や影のあつらいつる
粉白しく唄も静かしくし

春囀 希言 申齊 花江 白雄 長翠 曰人 武曰 千古 苜丸 曙山 嘯月

二日月

三日月

夕月

二日月あつと似てものよ二日月
三日月波乃あつとゆきちりり
三日月もるゆるあるもの善田川
みつとや織屋の内家客を待
三日月や机を巻と病よと
ハ風乃乃漂る中より二日月
三日月や先物本林の聖菜物
三日月や下地さけとある
三日月とおと夕や峰乃松
あつとつとつとつとつとつと
夕月や縁香の火乃まこつと
夕月またのりつとつとつと

士朗 羅城 三千彦 仝 葛三 卓池 一肖 夙也 緑川 五粟 長翠 清湖

宵月

待宵

稻屋色いひり嬉しや宵の夜
 宵月や只さやけなき人乃中
 待しひやむらさきもさるる
 まつ宵をさるるの月乃かこ
 生待宵や葉内画み去能乃石
 待しひ乃るや祈禱のまこ心
 待し宵やおのう酒くむ白拍子
 まの宵やあやうむふとの思候と
 待しひと月乃さあとの月松丸
 待し宵乃月やかくけて魚みよ
 待しとむや白木権乃砂子垣
 まの宵や一おみせまる林の空

士朗
 梅令
 白雄
 長翠
 全
 三千彦
 全
 葛三
 梅室
 由誓
 護物
 茶静

小望月

名月

待し宵やまうりまうりまのま
 舞泉
 待し宵や禊除禊にて鹿あり
 完明
 まの宵や戸さふもま乃中
 文河
 待し宵の庭をまうりまのま
 領西
 まの宵やま流るまのま
 孔正
 待し宵たま居の物ねあし
 千隣
 まの宵やま世まのま
 文雄
 待し宵やままのま
 蘭中
 待し宵やまのま
 伯支
 待し宵やまのま
 百明

三千國
 舞泉
 完明
 文河
 領西
 孔正
 千隣
 文雄
 蘭中
 伯支
 百明

名月や海きこやしのしら家
 名月や牛乳こころの峰乃松
 名月や僧をまよふの鬼をりき
 名月やむしきるに花乃山
 名月や先かきしむ花乃山
 名月やももつて花は花乃山
 名月や海のおあけを浪花丸
 名月や梅も小しらき札乃山
 名月やむしきるに花乃山
 名月や文て戸のゆく教隣
 名月や人かきさ家の字突ひ
 名月やお飲こころの山乃山

春鴻
 蓼太
 長翠
 全
 三千彦
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 全

名月やこころの草の中乃庵
 名月を大るのふくや松の風
 名月や子ののせしをく遊了
 名月や冷しけしと木乃鳥
 名月やまきしき長の白ひ丸
 名月や朝もつた注をり
 名月やまきて仕草ぬるの月
 名月やこころの海をあもる花
 名月のゆきこころのや花乃山
 名月やむしきるに花乃山
 名月やむしきるに花乃山
 名月やむしきるに花乃山

葛三
 成美
 全
 巢兆
 乙二
 椿堂
 鳳朗
 一蕙
 沙鷗
 而石
 一葉
 可布

月見

おぼろの地ももろけあま月見よ
月見堂よかくまてるもろき庵を
十におもてる月見を而く
月見をて旅も居さくいそく
神もせしむさく乾く月見
月見をてるも居る月見
あしは遠くもあま月見
大寺の上下りもさく月見
城さる人もあま月見
波もさく月見も永代
刻をわつてあま月見
いそくもあま月見

如洋
三平彦
士朗
椿堂
葛三
沙鷗
月底
應々
多代女
荷乙
百擗
一澄

芋名月

月

産みゆりて言葉さくも月見
家毎火を焚里の月見
子の戸りおとれも月見
芋名月山家もあま月見
芋名月さくもあま月見
文銀の高人通る月見
ゆいそくおのつてや井の月
蘇あま月見もあま月見
大系やあま月見も月見
舟もつておのつて氷の月
あま月見もあま月見
月見をてるもあま月見

玉芝
有臺
老雀
長翠
確嶺
蕪村
几董
春鴻
三平彦
全
全
全

珠—このはくまへ見えや山の月
 月のやまが—もふとさうり危
 三秋さうん—あまき月陀聖山くれ
 江乃香の常不—た月夜うぬ
 隣—うらやう—の届く—夜は
 影うらや乃 影もて遠—山の月
 松—あま—うらや—あま—月乃香
 月—さ—や 枝ぬま木—一—は
 月を—ま—ふ—い—り米搗男—うぬ
 不—き—家の—うらや—ま—あ—り山のみ
 月—を—友—り—て—さ—く—夢—の林—三月
 月—を—と—月—を—信—さ—と—男—うぬ

与 珠
 老 雀
 五 調
 孟 光
 嘯 月
 梅 窓
 碓 月 女
 一 耕
 素 好
 輅 聲
 清 湖
 不 仙

十六夜

月夜や夏の—の—も—あ—る—ん地
 殊—さ—う—く—見—ゆる—月—の—杵—小松
 ち—さ—の—お—ろ—う—を—月—み—あ—れ—る—る
 影—さ—く—山—の—の—の—を—り—庵—乃—月
 ち—ろ—り—の—林—を—風—ふ—く—月—あ—る—る
 戸—さ—る—ん—ぬ—ゆ—と—夜—と—あり—庵—乃—月
 い—さ—る—ひ—や—ね—み—え—と—の—宵—月—う
 十—六—夜—さ—う—さ—う—あ—ま—さ—か—ん—り
 小—菰—さ—う—さ—う—あ—ま—さ—か—ん—り
 池—の—蓮
 先—を—や—西—も—う—を—た—方—か—り—り
 小—菰—さ—う—さ—う—あ—ま—さ—か—ん—り
 十六夜やわりの物焚てほのめらる

江戸
 桃子
 涼窓
 雪哉
 彌天
 文雪
 晚翠
 二柳
 三千彦
 全
 全
 全
 全
 全

いさよひや市をたぐきむ人の中
十六夜や 氣おのふきか第とる
十六夜のはらうひて 柵 博 一 ぎ
ゆきまむやむぬみまむむ遠明り
いさよひハよき程ふ出る 月夜うぬ
十六夜や ぎのさひまよまぬを
十六夜や そろり 一 星の消うは
既夜や 月えりて 乃 寺 糸り
十六夜も ころり 枝の夕う好
ゆきまむや 越後 一 帰る 庵のさ
いさよひまむころの外のえい南
十六夜まむころ人のんる 月夜小

葛三 全 全 庵杖 卓池 万籟 大梅 應々 三五國 百丈 一志 掌石

立待月

居待月

臥待月

寐待月

亥中月

十六夜まむころのさきまむ月夜うぬ
まむら夜や ころり 松り 斎
まむら夜や 月み消さる山のま
まむら夜や 月の名はも 隣をい
おひまむころり 月を待夜も
あひまむころり 庵のまのれ 右待
月いれお 待て 待てん 林つ
臥て 待月や 高きまむら 寐
寐て 待月や 近きまむら 寐待月
人のんる 寐待まむら ぬまの月
まむらまむころり 亥中の中う月

千古 庭雅 左梁 兩紅女 確嶺 護物 茶徑 伯丈 素好 護物 確嶺 長翠

秋の月

涼戸をき出でて二のふゆぬき中月
 その戸や妹の白あそ 林の月
 泣けハるる泣くぬハ泣くそ林の
 林のぬりぬりこをく月ぬゆ
 とつうーやゆりいそくあきの月
 ひつぬぬもさかいさき月乃月
 赤くそいぬのあきこを路の月
 さうめいさうんてし那ああり林の
 父母の掃もしたるてりきの月
 森くそよゆ作をくそ林の月
 つ掃くそよゆ作をくそ林の月
 月ぬれハカみさうん味一ぬ

碓嶺
 几董
 三平彦
 士朗
 葛三
 樗堂
 全
 完表
 蕉兩
 曰人
 漫々
 几明

雨の月

山里や思ふもせぬ あきの月
 此この時やうもさき一林の月
 るぬよらうそを味の月
 我ものゆりも森くそ林の月
 とくもあまらうそを旅み林の月
 ちあくのちさこかと味一林乃月
 月乃雨完の扉みえ草
 悔さくハ悔さくハつるの月
 月乃雨完の扉みえ草
 月乃雨完の扉みえ草
 月乃雨完の扉みえ草
 月乃雨完の扉みえ草

西月
 禾木
 今珍
 清湖
 百丈
 文河
 長翠
 三平彦
 全
 全
 士朗
 關叟

星月夜

月の夕涼よまらさうくこころを
雨の月我も細工もか来ぬ空
さやもををんありなるるの月
るの月あるひも人の余はあり
晴安くおもひくふも月乃る
あゝ海や雲をうこまき星月夜
駕をとめてん屋をさし海草や星月夜
月一月初かみこころをさうり
さつゆめぬと一楸の浮葉くれ
初夜やおるそえさる夜乃山
けつ夜平海を渡り入江の南
初一不や和布の窓のをぬお

素因 荷乙 啄秋 蛙堂 駝岳 鷄周 良梁 長翠 全 成美 羅風

初夜

初夜の夕涼よまらさうくこころを
雨の月我も細工もか来ぬ空
さやもををんありなるるの月
るの月あるひも人の余はあり
晴安くおもひくふも月乃る
あゝ海や雲をうこまき星月夜
駕をとめてん屋をさし海草や星月夜
月一月初かみこころをさうり
さつゆめぬと一楸の浮葉くれ
初夜やおるそえさる夜乃山
けつ夜平海を渡り入江の南
初一不や和布の窓のをぬお

丁知 祖卿 錦袋 碓嶺 尾村 全 蕪村 佛朔 蕉雨 士朗 三千度 樽堂

苦

田の中よきわくふりゆきき
 又さうきききききききき
 龍くさあけきききききき
 又さうきききききききき
 空うきききききききき
 砂山もきききききききき
 夜のゆきききききききき
 山もきききききききき
 招ききききききききき
 世のきききききききき
 種ききききききききき
 空石の毎日きききききき

梅室
 観魚
 山子
 鳳朗
 抱義
 梅通
 加法
 全
 波鷗
 尾村
 山翠
 茂推

ありさうきききききききき
 弓きききききききききき
 月きききききききききき
 病人のきききききききき
 世のききききききききき
 名きききききききききき
 世のききききききききき
 秋きききききききききき
 靴きききききききききき
 降るのきききききききき
 川きききききききききき

巢兆
 全
 乙二
 梅室
 亀丸
 ちん丸
 苞竹
 葛古
 五什
 卜早
 旭山
 千古

花薄

近を花をどハ芒のりおろし
風のまじりても月まを落し
えりかきりふのうらむ芒うれ
十かろててて花のある落し
るののまおちたくすおち
目くまも芒もまきくうゆ
おろし花の枝まきくま
動くハ花もくうらむ芒
若うの家まきくま
戸くうら余はのうらむ芒
系中やおろくままきくま
魚の破まきくま

田文
梅屋尼
屏二
閑庭
好雨
蓼歌
葛三
全
ト早
梅室
苞竹
桃吏

系芒

尾花

外跡まきくま
夜ゆきく風の吹きり花まき
人よりおろし行りやまき
ま近くま目ま入まき
人まきてはまきくま
馬まきるゆのうけま
おろしや尾まきくま
おろしゆて目のまきくま
門まきり日柳のまき尾ま
まきくまゆの入りまき
ゆりけ乃思まきくま
一平の尾まきくま

春出
弥天
半嶺
可月
良梁
左系
白雄
三平彦
啓山
玉岱
佳風
西阜

芒の穂

芦の蒼

芦の穂

小薙花

遠くくく入りのあたる尾ちり
 極芒の中ゆきさしあむ想うり
 極みちりる秋の久きき苦うれ
 あつしを候てしやや芦の系
 柳みちりつと風ありあいのむ
 横さゆり日のさつたる極せん
 河の極み星くさすれさるる蒼うゆ
 芦の極や星くさるる極夕けうり
 芒の穂や舟と通はハ風乃ふく
 芦のふやふみもるるねん 是
 入りのまの田畑やこころを候
 けのあつとくくあぬ小薙さく

千春 舞泉 玉芝 禾葉 兎列 長翠 三千彦 梅間 素好 英文 奇淵 閑庭

初紅葉

今をきくく月りのあつ小薙さく
 空をむきくふ小薙さくやまの葉の付り
 あつとつ秋さるる小薙さく
 空をぬきくく月りのあつ初紅葉
 初紅葉さるるあつとつ初紅葉
 さるる初紅葉の中や初紅葉
 さるる初紅葉の中や初紅葉
 初紅葉上葉のあつ初紅葉
 池の魚さるる初紅葉
 さるる初紅葉の中や初紅葉
 日よ向く山さるる初紅葉
 常さるる初紅葉

雨庭 祖郷 柳女 南江 尾村 豊魚 其三 丁知 等裁 完鷗 祖風 香芸

梅室
 李朗
 柳條
 全
 事松
 卜早
 為山
 雨兮
 全
 祖御
 北松
 龜成

昔一昔の精々を神お察
 新うの日記を神お察
 其の日の神をみち
 ときく神を神お察
 うつる日の神を神お察
 新う神を神お察
 庭木と川を神お察
 新う神を神お察
 日南の神を神お察
 新う神を神お察
 新う神を神お察
 新う神を神お察

烏瓜
 確嶺
 蕪村
 静雨
 一桃
 龍玉
 大江丸
 士朗
 松翁
 蒼乳
 一瓢
 葛古
 儿明

今頃のつある命を神お察
 免と角も神お察
 かき瓜烏も神お察
 烏瓜赤く神お察
 世の中や神お察
 人の世を神お察
 これの神お察
 是さくも神お察
 若くも神お察
 十もも神お察

烏瓜 番椒

茗荷	能を月とてなるはのありてま椒 もすけおのきを梅やたすし	千巻紋 静雨
葉生姜	佐藤や梅も葉はいー茗荷の子 秋さくさくしてむより茗荷の子 もすけおのきを梅やたすし	三千彦 素郷 白雄
芥子蒔	葉生姜の破のまきこりー兩枚か りー蒔て小さくをりー葉戸の 芥子まきこりー葉戸の月	三千彦 護物 確月女
間引菜	川をふ菜のこりーもきこりー柳 々々の日の持本と葉を菜をり引	素好 確嶺
桿川	桿川の葉を狐り喰とけり 桿川や速くぬ雀の森もぬ	長翠 良梁

粟刈	粟刈やその日の月乃採合せ	確嶺
胡麻刈	胡麻をこきこきふまきり山の影 林の戸も胡麻花をこきこきりか まきこきこきこき胡麻刈隣りか	長翠 連和 良梁
稲	芦の穂のさくみまけさく穂の林 ゆきのまきやほむら体む旅はくれ 陸も葉や平の穂も穂のさく 穂のまきやさるり石橋引さる とるりさるり人のとるり稲葉さむ もあさるりさるりさるり稲穂は	三千彦 葛三 啓山 茶静 田朗 北亭
早稲	神のゆき子稲一色の白ひくわ 屈原も抜ましく稲も稲白入	長翠 三千彦

鶯のさきくつと多藤の枝の丁
 晨のや 丁のさきくつと山り眉
 厚のさきくつとさうとみや秋うれ
 中さきくつと思案のさきくつと丁のさき
 丁のさきくつとさきくつとさきくつと
 今よりさ丁のさきくつとさきくつと
 小田の丁のさきくつとさきくつと
 藤のさきくつとさきくつとさきくつと
 丁のさきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと

希言
 天布
 布川
 涼湖
 鳳朗
 茶静
 葛古
 茶径
 芥翠
 冬扇
 易足
 其玄

乙鳥帰

鳴

宿々旅み仲一林たさくんやりち丁
 夕さめてさうぬおさる一丁のさき
 さきくつとさきくつとさきくつと
 長旅を忘れてさきくつとさきくつと
 人稀ふ時帰てさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと
 東山さきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと
 さきくつとさきくつとさきくつと

晚翠
 千古
 三千彦
 曰人
 白雄
 長翠
 三千彦
 士朗
 月居
 一茶
 蒼札
 荷乙

梅令 爲山 茶瓢 芦城 卜早 波鷗 祖山 花海 其三 全 北松 蟻 五鳳
 夕日と申せざる煙種や梅の鬢
 梅令 爲山 茶瓢 芦城 卜早 波鷗 祖山 花海 其三 全 北松 蟻 五鳳
 夕日と申せざる煙種や梅の鬢

梅令 爲山 茶瓢 芦城 卜早 波鷗 祖山 花海 其三 全 北松 蟻 五鳳
 梅令 爲山 茶瓢 芦城 卜早 波鷗 祖山 花海 其三 全 北松 蟻 五鳳
 梅令 爲山 茶瓢 芦城 卜早 波鷗 祖山 花海 其三 全 北松 蟻 五鳳

小鷹狩
泊狩
秋の蝶

萩のつ尾花を善哉の小鷹狩
篠竹のせぬるをささぎのしりり
飛ぶさく秋のきしゆるや木の葉
二ッ来てあはれささぎの葉のてふ
木の葉に柱うてえささぎの葉に
さのさすてふささぎの葉のてふ
傘あはれいてささぎの葉のてふ
追れてもささぎの葉のてふ
木の葉に柱うてえささぎの葉に
ささぎの葉に柱うてえささぎの葉に
ささぎの葉に柱うてえささぎの葉に
ささぎの葉に柱うてえささぎの葉に

三千彦
全
茶静
素因
梅温尼
碓月女
抱琴
菊泉
思月
静兩
梅野
等仙

秋風

こもりけや嵐のちとりの林のうせ
尾と数時の羽赤くささぎの風
秋風のり方ハ星の林、うせ
くハ人のささぎの葉のてふ
魂と見えしうせつもの葉の風
只存ても後をふるささぎの風
秋風やゆめ小鳥のちとりの
あさぎの風この葉のちとりの
秋風や小揚をささぎの葉の
あさぎの風この葉のちとりの
秋風や小揚をささぎの葉の
あさぎの風この葉のちとりの
秋風や小揚をささぎの葉の
あさぎの風この葉のちとりの

白雄
長翠
全
全
全
全
三千彦
全
全
全
全
全
全
葛三

釣糸の垂つゝさくや十三夜
 月の光うつるや十三夜
 月を月いづれに十三夜
 むすぶる花の多さ十三夜
 親二人おれさひ十三夜
 ちきりやあふさけり十三夜
 白雲の志し十三夜
 蟹うみを魚命月能酒田舟
 豆名月秋のちい秋の詞う形
 ささしさと老ての辰の月いふ
 辰の月おろハ秋ふき思ひあり
 けり来人も老るるのちり月

馬年
 應々
 淡香女
 三民
 芭竹
 春齊
 匡彦
 長翠
 良梁
 蝶夢
 白居
 長翠

豆名月

辰の月

昔ながら娘お似や辰の月
 辰の月山里ちくちくまろ
 いそいそぬい嬉しき辰の月
 釋ききむさかす辰の月
 ちあきりの忘まぬ色や辰の月
 辰の月藤どうしの蔭の藤ふ入
 山里を忘れず居る辰の月
 辰の月いづれさるる力進まら
 ちきりのむ花蕪の危辰の月
 獨中をあまき一庵をのちの月
 秋もたや一秋さきむや辰の月
 辰の月さゆ引るる光う形

三彦
 全
 全
 全
 菅三
 尾全
 月居
 樗堂
 乙二
 鞞風
 護物
 梅令

今年酒

さしづきを足す 酔うる 妙酒の 知
 茶 飄
 馬 卿
 花 海
 春 齋
 五 渡
 二 兆
 泉 松
 ト 早
 郎 山
 全
 紅 頂
 下

醱醸漉

後の籬
九日菊

としるくの法附ふ 下波の他 江ノ
 等 仙
 寥 松
 三 彦
 全
 巢 兆
 啓 山
 か 長
 几 芳
 曙 山
 子 起 波

雨のそよふ中一葉の白しう水
 落付了葉をうらむや葉をうら
 葉さくやま一月の白のあけり
 何れもあまを偶成や葉の白
 葉葉をうらむをうらむをうらむ
 葉のまよふくを水海のうらむ
 波中くあけり一葉さく一葉さく
 まま一丈八利 徳と葉の白しう水
 ぶ葉や月の白し 日出るま
 葉さくまをうらむをうらむ
 葉のまよふくを水海のうらむ
 何れもあまを偶成や葉の白

梅室
 喜年
 尾村
 かほら
 耕雪
 亀汀
 祖郷
 全
 一羽
 全
 友松
 波鷗

日菊

葉いりく葉をうらむをうらむ
 何れもあまを偶成や葉の白
 葉のまよふくを水海のうらむ
 何れもあまを偶成や葉の白
 葉さくまをうらむをうらむ
 葉のまよふくを水海のうらむ
 何れもあまを偶成や葉の白
 葉のまよふくを水海のうらむ
 何れもあまを偶成や葉の白

長翠
 まる
 月敏
 連志
 千穂
 春齊
 千古
 等仙
 吉齋
 伯走
 船彦
 三成

黄菊

小菊

七十八

野菊

穉らるしあををたうきむ野菊か
 依菜とて摘けるものを野菊とて
 吹越の風ももよけぬ 野菊よ
 お人のあふくおほく 野菊よ
 似ておのそふて 咲立野菊うね
 九つと十つとこころのさくうね
 山は乃秋をくけとる 野菊よ
 おほくくに咲てこころを野菊よ
 お若きまよふと 山をくね
 木のくふてくらすり 山をくね
 花々のくは 野菊よ 山をくね
 山をくねのくは 野菊よ

三千彦
 全
 魚毛
 孔正
 松徑
 春齊
 里桃
 長翠
 三年彦
 梅令
 宇南

蕎麥花

我木香

世々の日のをくそむくやそくの
 おほくくやゆらぬおほくく
 依をくくく油の里をくくく
 依のくくおほくの油をくくく
 月おほくくくくくくくく
 中おほくくくくくくくく
 野菊よとあまの風をくくく
 つくくくくくくくく 我木香
 けいんもおほく 林をくくく
 を山のくくくくくく 我木香
 里人の教くくくくくく 我木香
 山をくくくくくくくく 我木香

一耕
 阿分
 一望
 以吉
 確嶺
 三千彦
 龜丈
 護物
 伯丈
 苞竹
 鳳石
 五山

柚

藥燭

木實

椎實

村さかりみ過るるあり赤木香
 秋のうけこりけみあり我木香
 夕方のあやつうふささるるわささ
 柚の木ろりあけむのや後ゆき
 まのめも一まのいそ柚の白ひ
 粧まねぬせととちりつて葉なり
 後ゆきとちりつて葉なり
 長くや一木のまを後ゆき葉なり
 後ゆきの木のまを後ゆき葉なり
 さのいこちりつて葉なり
 送り後ゆきとちりつて葉なり
 後ゆきのまやとちりつて葉なり

方舟
 以吉
 文樵
 三千彦
 全
 一瓢
 孤星
 長翠
 茂什
 綾國
 長翠
 確嶺

椎柴

栗

落栗

椎のまきとちりつて葉なり
 栗のまきとちりつて葉なり
 落栗のまきとちりつて葉なり
 椎柴のまきとちりつて葉なり
 栗のまきとちりつて葉なり
 落栗のまきとちりつて葉なり
 椎柴のまきとちりつて葉なり
 栗のまきとちりつて葉なり
 落栗のまきとちりつて葉なり
 椎柴のまきとちりつて葉なり
 栗のまきとちりつて葉なり
 落栗のまきとちりつて葉なり

涼湖
 茶静
 静雨
 左のめ
 左梁
 公山
 三千彦
 全
 女子
 卓池
 田朗
 三桂

八打

二朝茶うきをぬやまるとみ葉うれ
 夕うけの梢をぬくるとみ葉うれ
 春うきをぬくるとみ葉うれ
 秋うきをぬくるとみ葉うれ
 冬うきをぬくるとみ葉うれ
 春うきをぬくるとみ葉うれ
 夏うきをぬくるとみ葉うれ
 秋うきをぬくるとみ葉うれ
 冬うきをぬくるとみ葉うれ

等仙 省古 三民 乙人 文雄 一望 麥秋 嵐齊 百丈 儿明 全

薄紅葉

梅紅葉

櫻紅葉

柿紅葉

四下うきをぬくるとみ葉うれ
 秋うきをぬくるとみ葉うれ
 冬うきをぬくるとみ葉うれ
 春うきをぬくるとみ葉うれ
 夏うきをぬくるとみ葉うれ
 秋うきをぬくるとみ葉うれ
 冬うきをぬくるとみ葉うれ
 春うきをぬくるとみ葉うれ
 夏うきをぬくるとみ葉うれ
 秋うきをぬくるとみ葉うれ
 冬うきをぬくるとみ葉うれ

晚臺 蕪村 確嶺 蓼歌 長翠 春嶺 長翠 梅史 英文 確月女 翠二 五粟

猶紅葉

楓紅葉

ぬく紅葉

憶紅葉

林紅葉

萼

ちりあつてさうねて橋のわたりを
 んぞくも有やうな花はあつたか
 森乃橋もさうせぬ枝も赤れあり
 楓もさうもさうちとぬまに所
 退つてさうさ秋もあつての紅葉
 ぬくさうささうさうさうさうさ
 りさうささうさうさうさうさ
 拾うさうさうさうさうさうさ
 牛もさうさうさうさうさうさ
 紅葉もさうさうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさ

卓郎
 左ふ
 一宵
 良梁
 長翠
 今
 亀丈
 雪磨
 長翠
 三夕
 長翠
 茶静

珠数子玉

末枯

珠数子玉をふとさうさうさ
 老を秋の帰るるさ珠数子玉
 末枯ふさうさうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさ
 末枯や関谷乃里を今さうさ
 さうさうさうさうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさ
 末枯や海も吹さうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさ
 末枯や信国さうさうさうさ

乙二
 碓嶺
 長翠
 今
 涼湖
 亀丸
 青仙
 梅居
 涼窓
 三帛
 春齊
 桃仙

鹿

蕙くつて脊方骨さるし麻のあ
萩のゆきく山のさるし麻のこま
ぬらまじり常とまかり危志の海
鹿啼てまられけり萩の山
月あまの麻の裏はしるまきうね
園の麻のさき林よりくさりたる
啼きうのつねくさるし無屋の
麻啼のつねくさるしむらさき
ひらめくつて鹿しる麻のこま
志のまき萩しるまきうね
鹿の香の消ゆる麻の海
秋麻のつねくさるし

園更 大江丸 几董 尾全 長翠 三千彦 全 全 全 全 全

麻のまきの風もあまのこまの萩のうね
おさくつと細とまきしるまきのこま
まきあやまのこまのこまの麻
はままの麻のこまのこまの麻
鹿啼のつねくさるし山家
入内や常とま麻のこまのこま
鹿啼や人たるとまのこまのこま
おのつとまのこまのこまのこま
まきあやまのこまのこまのこま
まきのまきあまのこまのこま
鹿啼やまのこまのこまのこま
麻のまきのこまのこまのこま

涼湖 三葛 几明 啄秋 連志 犀二 秋鯉 柳室 孟光 川帯 五十二 田朗

八廿五

ちかぬめやそとくもあらし丘の菘
 如く灯のり方も遠く菘の香
 岬まゝ出さず鳴きや明のり
 菘あしくや足よあそびしそよのる
 ふきく岬よまきくうもや菘の香
 麻あしくや月ハ屋上よ入りその中
 菘うりよるやまきせも風よちる
 菘苗や宵月あつを小るふ
 常安ま、林のあさよさくメ活
 山あしくぬ山あしく海くま木の汁
 初草や首をぬ身あ 畑との
 そらあけや山あしくつうぬ小松原

已有
 五渡
 山子
 雨兮
 梅笠
 かほ良
 尾村
 湮溪
 亀丈
 藤水
 碓嶺
 葵歌

菌

初草

秋暮
 けくくも原草あさる林めくれ
 さくくもくくくくくくくくく
 ちかぬめやそとくもあらし丘の菘
 如く灯のり方も遠く菘の香
 岬まゝ出さず鳴きや明のり
 菘あしくや足よあそびしそよのる
 ふきく岬よまきくうもや菘の香
 麻あしくや月ハ屋上よ入りその中
 菘うりよるやまきせも風よちる
 菘苗や宵月あつを小るふ
 常安ま、林のあさよさくメ活
 山あしくぬ山あしく海くま木の汁
 初草や首をぬ身あ 畑との
 そらあけや山あしくつうぬ小松原

蝶夢
 青蘿
 大江丸
 長翠
 三平彦
 士朗
 星布
 一茶
 卓池
 雲石
 茶静
 ちんた

流を早めて遊ばし人あり九月
大のくくくくくくくくくくくく
魚のくくくくくくくくくくくく
世に何をきききききききききき
言のやきききききききききき
新の移りよきききききききき
子ちのくくくくくくくくくくくく

河亭 紅頂 木齋 波鷗 南溪 李補 祖卿

